

# 総合周産期母子医療センター

## 中病棟 2 階・MFICU

(周産母子診療部・母体胎児集中治療室)

### 1. 看護単位の概要

病床数 周産母子診療部（産科）14床 MFICU6床 共通病床5床

### 2. 病棟の特徴

#### 1) 周産母子診療部

糖尿病、自己免疫疾患など内科疾患合併妊娠や、切迫流早産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤などの妊娠合併症の妊婦が入院している。また、母体搬送依頼を断らない方針とし、妊娠合併症や常位胎盤早期剥離、2000ml を超える弛緩出血などの産科救急搬送を、昨年度は年間約 110 件以上受けいれている。

分娩数は年間 304 件、そのうち、帝王切開率は 57% である。総合周産期母子医療センターとして搬送を受ける立場にあるため、ハイリスク妊産婦が多い中、可能な限り自然分娩や母児同室と早期母乳栄養開始を実践している。また、脳血管疾患合併妊娠等に対する無痛分娩も麻酔科の協力のもとおこなっている。

産婦への個別指導は、分娩入院中だけでなく産後 1 ヶ月まで、さらにそれ以後も、育児や母乳栄養に関する相談ができる外来を助産師で開設し、妊娠分娩産褥期の不安解消に努めている。

#### 2) MFICU : Maternal Fetal Intensive Care Unit (母体胎児集中治療室)

2019 年 4 月総合周産期母子医療センターの認可を受け、京都府下の周産期医療体制を支える体制が強化された。重症妊娠高血圧症候群、切迫早産、子宮内胎児発育不全、多胎妊娠、前置胎盤など母体・胎児の両者について 24 時間体制の厳重な集中治療を要する疾患の診療に対応するための医療スタッフが常駐し、設備が整えられている。救急搬送された妊産褥婦の病態の急変や環境の変化による精神的ケアにも力を入れている。

#### 3) 助産師ケア外来・助産師外来・院内助産

助産師による相談外来を設けており、不妊治療から妊娠、分娩、産後の育児の問題まで、多方面への支援を行っている。

助産師外来は、妊婦健診（超音波検査・内診・外診）を助産師が行い、より健康的なマタニティライフを送ってもらえるよう指導し、妊婦の生む力を引き出す援助を行っている。院内助産では、病院内で助産所の良さを生かし、産婦の「産む力」・赤ちゃんの「生まれる力」を最大限にし、自然なお産ができるよう助産師が支援している。経過中に異常があれば産科医・小児科医が対応する体制も備えている。

#### 5) 高度生殖医療センター

不妊治療部門では、大学病院として他院では治療困難とされる患者や、癌患者の妊孕

性支援の治療を行っている。また、不妊カウンセラーの資格を持った助産師による専門的な指導も実施している。